

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第11回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

- ・4年間の活動の振り返りについて
- ・次期委員への引継事項について

(2) 報告事項（公開）

- ・地域独自の予算の事業一覧について

(3) その他

3 開催日時

令和6年3月19日（火）午後6時30分から午後8時15分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第3会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：太田一巳（会長）、白濱昭博、田中裕子（副会長）、谷 健一、藤田晴子、
本多俊雄、丸山佳子、山田 孝、吉田 実（副会長）、吉田義昭、渡邊康子、
渡部忠行（欠席5名）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長

8 発言の内容（要旨）

【渡邊係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【太田会長】

・挨拶

【渡邊係長】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【太田会長】

・会議録の確認：白濱委員に依頼

次第3議題「(1)協議事項」の「4年間の活動の振り返りについて」に入る。全委員から4年間の感想をいただきたい。

【白濱委員】

今回初めて春日地区の委員になった。私は元市職員で、逆の立場でこの協議会に参加し、説明会に出席したことがある。そのときとは全く違い、地元に対する責任感をとても感じた4年間だった。ここで得た情報は、地元の町内に持ち帰り、役員に話をし、それを参考に町内が動いたこともある。そういう意味で、委員になったことは良かったと思うし、非常に勉強させていただいた。

特に、この春日地区について感じたことは、一つの協議事項に対して、皆さんの意見が本当に違うことだ。時間を気にせず議論したこともあり、それだけ地元に対する愛情や責任を持って発言しているということだと思う。多数決を行っても決まらず、議長採決になることもあった。そういう面では、春日区地域協議会は非常に活発で、私自身、勉強になった。ここで得た知識を役立てて、地元でしっかりと頑張っていきたい。

最後に、この地域協議会がますます発展されることを祈念し、お礼の言葉に代えたい。

【谷委員】

4年間の振り返ると、前半は地域活動支援事業の審査、後半は自主的審議の協議だった。中身の濃い審議になり、私自身、今までにない経験ができた。この地域協議会で一番感じたことは、自主的審議はどう進むのかという最初の疑問から、こういうことをやれば、こういう結果につながるということが分かってきた。これが本来の地域協議会の役割だと思うので、今後も委員の皆さんに頑張ってもらいたい。

【藤田委員】

私は前期からなので、8年間が終了した。地域協議委員を実際になったときは、私の知識では及ばないような気がして、最初から教えていただくことばかりだった。

今期の4年間は皆勤だった。せっかく委員になったのだから、休まないことぐらいは

やり通さなくてはという思いだった。皆さんから教えていただくことがたくさんあり、私自身、やってよかったという思いがある。知らなかったらそれで済んでしまうことだが、いろいろな方面から物事を考え、また、自分の意見も言わなくちゃいけないという、そんな状態で仲間に入れていただいたことをとてもありがたく思う。

【本多委員】

委員になるまでは、何をやるのか分からなかった。特に前半は、地域活動支援事業の審査で遅い時間まで皆さんと協議し、いろいろな意見を出し合い、最後に方向性を出すのが一番いいと思っていた。会議では黙って終わりではなくて、とにかく自分の言いたいことを言って協議し、決定したら、もう余計なことは言わない。同じ方向に皆で向かっていくところが、この協議会の良いところだと思う。

ここの委員は、他の区よりも平均年齢が高く、今後どういう年齢構成になるかも分からないが、闊達に意見交換するのが一番いいと思う。

【丸山委員】

皆さんの活発な意見交換や活動する中に入れていただき、本当に4年間があったという間だった。福祉部会では、いろいろな町内のことを調べた中で、自分の町内のことも分かり、他の町内のいいところも参考になった。また、他の委員のおかげで、老人会の中の有志でスポーツ行事が週に1回行われたり、仲間同士でお茶会等を開催したりと進んだことが嬉しい。

今度、老人会の班長になったので、この地域協議会の皆さんとのことを思い出しながら頑張っていきたいと思う。

【山田委員】

うちの町内が地域活動支援事業で予算をいただき、町内の役員の方々と協議し、地元の人からいろいろな品物を借りてミニ文化祭を開催できたことが一番印象に残っている。

【吉田義昭委員】

私が65歳のとき、高野山の僧侶の講義で、これからの余生は目的を持って過ごし、家族を大事にし、地域に貢献する恩返しをして、生きがいを持って過ごすことを勧められた。そして、70歳のときに町内会長から推薦され、応募して協議会委員になった。この4年間を振り返っても、その気持ちが一番大事だと思っている。

委員になって2年間は、地域活動支援事業の審査を行ったことで、町内会の仕組みを知る勉強になった。その後は、地域の課題解決などに取り組む2年間だった。先日、直

江津区の活動報告会を傍聴し、市の諮問に対する答申が春日区と直江津区では違うことを知り、参考になった。

地域の活性化で3つのテーマに分かれて活動する中で、私は福祉分科会のリーダーになった。地域活性化は町内会活動が原点だと考えている。そこで19町内のうち13町内の役員体制、活動事業、人口構成、世帯数、支援事業について、子供会、敬老会、春日地区町内会長連絡協議会の活動内容について、各保存会、体育レクリエーション、地域の青少年育成会議、中学校や小学校の後援会長を全部町内会長が担っている仕組みがあり、2022年の3月から6月まで、私なりに調査し、他の委員にも依頼して、各町内のデータを集計した。それがベースになり「あらゆる世代が心豊かに健康で暮らせる春日区」という審議テーマで「いきいき春日野ふれあいコンサート」に焦点を絞り、実行団体の責任者と協議し、合意した内容を町内会長連絡協議会で発表した。そのときの回答に対し、私の思いが伝わらず自分の力の無さを感じ、いろいろな問題があることを痛感した。そういう経緯もあったが、次の年の6月11日に第17回のコンサートが皆さんの協力のおかげで盛大に開催されたことは、非常に良かったと思う。実行委員会が設立され、一つの目的を達成した。4年間このような活動を務めたことで、地域の活動や、市の取組が分かり、良い経験させていただいたと感謝している。

次期委員への引き継ぎに向けた事務局へのお願いとして、新しい委員には、お互いのことが分かるように、オリエンテーションを行い、活動の説明時には親睦会を開催し、コミュニケーションを取る機会を作っていただきたい。少子高齢化などのいろいろな社会問題がある中で、地域の問題点も共通している。そういう問題に取り組む際には、事務局から市の取組内容を協議会に情報開示して、ディスカッションできるようなテーマに絞り、それに知識を広げるような講習会や研修を企画して進めてほしい。協議会の認知度が低いのが現状だ。

【渡部委員】

私がこの地域協議会に参加する理由は2つある。約7年前、町内会長のときに、除雪機を有効利用するために軽トラックを買って欲しいと要望した。ひとり暮らし高齢者のために除雪やごみを運ぶシステムを作りたいと提案したが、却下され悔しい思いをしたことが一つ。もう一つは、地域で草刈りとか、春日山関係の活動をしている関係で委員になった。最初の2年は、交通安全協会の仕事が負担になり、地域協議会の活動に対しては、達成感もなく地域の皆さんに申し訳ない気持ちである。

【吉田副会長】

私は、4期続けて委員をしている。取り組むスタンスとして、地域の課題や問題について、この協議会で審議して、改善していきたいということを根底にしてきた。今回の4年間は、観光関連で2回現地視察させていただき、地域活動支援事業の審査も含めて、非常に勉強させていただいた。

問題は、この地域協議会の認知度が低く、地域にあまり知られていないことだ。公開討論会のような形で、地域の皆さんとディスカッションをして、地域からの声を吸い上げることが大切で、次の課題にしてはどうかと思っている。

【田中副会長】

私は、地域協議会では駄目なことは駄目だと、誰も知らない中で意見が言いやすいと思いき委員になった。副会長になり、会長を助けながら、スムーズな進行となるよう努めることになり、本当にそれでいいのかと言えずに4年が経ってしまった。自分の言葉で誰かを納得させることがとても難しいと、毎月考えながら過ごした4年間でもあった。

今まで家の中にいた私が、人にどう説明したら理解してもらえるかを考えるのは、とても楽しい作業だった。意見が多数決で5対6とかに分かれたときには、納得できないこともあった。私は、もっと人を納得させるような意見や提案が日々の中でもできるよう、今は一生懸命考えているというのが、この地域協議会で得られたこれからの自身の課題だと感じている。

【太田会長】

4年前、私が会長になり、28区の地域協議会で多分私が最年少だと思う。経験不足ながらも会長をさせていただいた。経験豊富な諸先輩方、自分の親世代の人たちをまとめていけるのか不安だった。年齢差もあり共通の話題も少ない中で、春日区の住民であり、春日区を良くしたいという思いの人の集まりで、意見がぶつかることもあった。それでも春日区を良くしたいという思いは変わらないので、いろいろな考え、思い、目線があることを知り、2期8年間、良い経験になった。

地域協議会は認知度不足で、もっとPRできたのでないかと反省点はあるが、次の委員にはPRの仕方を考えていただき、こういう先輩方や若い世代にも入っていただき、いろいろな年齢層の考えを聞けるような会になるといいと思う。なぜ地域協議会の委員になる人が少ないのかというと、やはり魅力がないのだと感じている。地域協議会委員の立場が分かりにくいので、次の委員には、事務局を含め行政と共に協議会の存在を明

確にできると、委員になる方も増えると思うので、検討していただきたい。私も地域の知らないことがたくさんあり、勉強をすることができた。次期委員の皆さんには、今以上に活発な地域協議会になっていただきたい。

以上で、次第3議題「(1) 協議事項」の「4年間の活動の振り返りについて」を終了する。

次に、次第3議題「(1) 協議事項」の「次期委員への引継事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

- ・資料No.1 及び地域協議会だよりに基づき説明

【太田会長】

ただ今の説明について、意見を求める。

【吉田義昭委員】

今の委員と次期の委員では問題を取り込む出発点が違うので、この協議は意味がないのではないかと。

【渡邊係長】

資料No.1については、これからの協議の参考になればと用意しただけで、何も意見がなくても構わない。思い付いたことを発言していただきたい。

【本多委員】

私は、春日山城跡の観光振興を引き続き進めることを要望する。

【太田会長】

それも一つの形だが、協議会委員になるに当たり、解決したい課題を持っている方もいると思う。最初に課題を作ると、その方の志が無駄になってしまう。次期委員の思いを尊重しなければいけない。

【渡邊係長】

次期の委員への強制力はない。それは、皆さんが、前期の委員からの強制力が無かったのと同じことで、考え方はやはり違うと思う。例えば、春日山観光について、今期のものをそのまま継承していくのが次のステップと考える方もいれば、ちょっと違う見方をして、今回は市へ意見書を提出したが、地域で春日山に関して活動することが次のステップだとなれば、そのように進む。また、地域の課題が防犯や防災に変わるかもしれない。そこは、次の委員にお任せいただきたい。

【渡部委員】

私は、今期の3つの分科会に分けたことに関して反対だった。本当に地域の皆さんが困っていることについて、我々は議論できたのか心配だ。私が地域の皆さんに申し訳ないと反省しているのは、いろいろな意見を全く反映できなかったことだ。最初から部会とか決められると、そこに入るしかなくなる。次期の委員には、内容を協議して進めていただきたい。

【吉田副会長】

委員に与えられている役割は、市長からの諮問事項に対して答申することと、もう一つは、自主審議をして意見書を提出することだ。それを次期委員に伝えるときに、前期は自主審議でこういうことを議論したというのは参考になる。審議に当たっては、過去の事例などをしっかり研修してもらう必要がある。そして、新任の委員に、私たちがやってきたことを参考に提供する。資料ではなく、こういうのを参考にしてくださいというぐらいでいいと思う。

【藤田委員】

地域協議会は何やっているのかと地域の方々は思っている。ある会合で地域協議会の提案を受け、防災士会の春日支部が設立されたと聞き、初めて地域協議会が公の場で、こういう仕事したということを教えていただいたような気がした。地域協議会のPRの場があまり無いので、私も委員になりたいという雰囲気が出てこないのだと思う。

【谷委員】

地域独自予算の活動について、もっとPRしないと地域になかなか広まらない。次期の委員にそのことを伝えていただきたい。

【渡邊委員】

私は、他の委員から協議会委員になって欲しいと依頼され、何をやるのかよく分からないまま引き受けた。皆さんとの意見交換に当たり、私とは違う考えや意見を聞き、いろいろ勉強させていただいた。

私は、安全安心部会を担当した。この協議会が春日地区に防災士会を立ち上げたということは、大きな成果があったと思っている。

【吉田義昭委員】

「春日区地域協議会だより」は、協議会を知ってもらうには重要だ。協議会は何をやっているのかよく分からないという意見があり、活動内容を知ってもらうには良いと思

う。活力のある 40 代から 50 代の人に参加してほしいが、知名度が不足していると思う。

【太田会長】

他に質問、意見はないか。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で、次第 3 議題「(1) 協議事項」の「次期委員への引継事項について」を終了する。

次に、次第 3 議題「(2) 報告事項」の「地域独自の予算の事業一覧について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

・資料No.2、資料No.3 に基づき説明

【太田会長】

ただ今の説明について、質問、意見を求める。

【渡部委員】

この 8 件のほかに、提出された事業はあったのか。

【渡邊係長】

8 件のほかに 2 件、提案の相談があった。1 件は団体が設立されたばかりで、もう少し協議するということを取り下げられ、もう 1 件は事業内容が独自予算に馴染まないということを取り下げていただいた。

【渡部委員】

地域協議会は、地域独自の予算に全く関与できないのか。

【渡邊係長】

要綱には、「地域協議会は関与できない」という規定はない。通常の補助金であれば、担当部局が予算を確保し、申請を受け付け、審査、交付決定を行う。むしろ、今までの地域活動支援事業が特別なやり方だったものをご理解いただきたい。

【渡部委員】

却下された 2 件の内容について、地域協議会がアドバイスできるのではないか。

【渡邊係長】

この 2 件について、中部まちづくりセンターでは、提案から予算査定までの間、団体のお手伝いをさせていただいている。

【渡部委員】

了解した。

【太田会長】

地域独自の予算事業は市の予算なので、地域協議会は関与できない。市の予算を各団体が活用していく形である。

【吉田副会長】

私は、柿崎区と直江津区の地域協議会の活動報告会を傍聴した。柿崎区は、空き家問題などの難解な問題について、団体を立ち上げ、成果を出していた。その中に「明日へつなぐ事業検討委員会」というのがあり、地域独自の予算事業につながる検討をされている。令和7年度地域独自予算の提案に向けて、春日区地域協議会も会を作り、検討することは可能だという感想を持った。私たちが提案の主役になれないかもしれないが、そういう関係の団体に提案することは可能ではないか。

【渡部委員】

地域独自の予算で事業を行う団体と意見交換できれば良い。私も他の活動報告会を傍聴したが、春日区との違いが大きく分かった。町内の皆さんが本当に困っていることに対応できていないのが残念だ。

【山田委員】

- ・資料No.3の事業名No.4について質問

【渡邊係長】

- ・資料No.3の事業名No.4について回答

【太田会長】

他に意見はあるか。

(発言無し)

意見が無いようなので、次第3議題「(2) 報告事項」の「地域独自の予算の事業一覧について」を終了する。

次に、次第3議題「(3) その他」に入る。

その他、何かあるか。

(発言無し)

意見が無いようなので、次第3議題「(3) その他」を終了する。

次に、次第4その他の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

他に協議事項がなければ、本日が今期最後の協議会になる。急に諮問事項が入ってきたときは開催する。

【太田会長】

他に何もなければ、今期最後ということでよいか。

(よしの声)

以上で次第4 その他の「(1) 次回開催日の確認」を終了する。

次に、次第4 その他の「(2) その他」に入る。何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。